

大阪市における「訪日外国人を含む災害時外国人支援・災害多言語支援センター運営研修会（概要）」

- ◎ **開催日**：令和2年9月8日(火曜日) 13:00~17:00
- ◎ **開催場所**：大阪市立浪速区民センター
- ◎ **参加者等**：近畿地域国際化協会職員・行政職員・留学生等 約40名
- ◎ **主催団体**：公益財団法人大阪国際交流センター、大阪市浪速区役所
- ◎ **共催団体**：近畿地域国際化協会連絡協議会

取組の概要

▶ 訪日外国人の存在を考慮したうえで、在住・来阪外国人が地域の避難所に避難してくるという想定のもと、新型コロナウイルス感染防止策下での避難所のあり方、他機関と役割分担や連携体制を構築しながら多言語支援センターを運営するために何が必要であるかを研修を通して考える。

【成果】

国際交流協会や自治体職員の中には、「在住外国人の支援は国際交流協会や国際担当部署、観光客への支援は観光局や観光課で部署が違うので関知しない」という意見を持っている方もいるが、本研修に参加して外国人観光客も避難所に来る可能性があることを実際に体験していただき、在住者・観光客に共通する課題について認識いただくとともに、在住者・観光客問わず目の前の被災者に向き合い、他機関と連携しながら支援する大切さを認識いただいた。

研修講師からは、「新型コロナウイルス感染防止対策のため、ボランティアが避難所に出向いて支援する従来の形が今後難しくなる可能性があるため、今後は災害多言語支援センターの支援の在り方や巡回型ではない支援方法も検討する必要がある」との示唆をいただいた。

訓練の内容

① 大震災発災！その時どうする！（シミュレーション）

（一般参加者対象）

災害多言語支援センターの役割や近年の災害時における外国人対応の事例等

（外国人参加者対象）

防災・災害多言語支援センターに関する講義



講師から研修についての説明



避難所で聞き取り調査

② 避難所での対応（ロールプレイ）

コロナ感染症防止対策をした避難所受付。

自治体・地域国際化協会・ボランティアでチームを組み、避難所巡回・被災者役の外国人参加者に状況、困りごとなどの聞き取り。



受付での検温・手指の消毒



外国人参加者向けの講義

③ 振り返り・課題の共有

浪速区役所と一緒に実施することで、実際の状況に即した内容で実施できたとともに、コロナ禍においても、アプリ等を活用した支援の有効性を認識することができた。

終了後のアンケートでは、日本人・外国人参加者のいずれからも、災害時の行動について理解できたなどとの高評価を得た。